

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272000268		
法人名	有限会社 栄寿会		
事業所名	有限会社 栄寿会 グループホームふるさと		
所在地	長崎県対馬市上対馬町泉1635		
自己評価作成日	平成27年9月21日	評価結果市町村受理日	平成28年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成27年11月18日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

対馬の美しい自然環境に恵まれた施設で、自宅で生活しているような雰囲気の中で、利用者は日々を生き生きと過ごされている。利用者の尊厳を守り、心に寄り添う介護を実践している。ご家族の訪問、電話等絶えずあり、入居者、家族、施設が一体となり支援している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺は海や山といった自然に恵まれた場所に位置しており、代表を中心として地域と親交が深いホームである。理念に利用者の「能力を活かした生活」「尊厳ある生活」の支援を謳い、利用者にとって1日1日の人生を楽しく過ごすことが出来るように、職員は理念実現に向けて取り組んでいる。職員は介護計画の意義を十分に理解し、日々実践している。介護計画はケアマネージャーと情報を共有し、本人本位の計画となっている。利用者の暮らしぶりや健康等の様子は、要点をまとめ各家族へ毎月郵送し、家族の安心感とホームへの信頼となっている。利用者が出来ること出来ないことを職員は理解し、自身で出来るゆっくりと見守り支援をしている。ホームでの日常生活から、利用者は、自身で出来る喜びから活力へ繋がっている。利用者の表情は柔らかく、まさに理念に沿った支援が窺えるホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で理念を共有し、毎朝のミーティング等において復唱し、実践への取り組みを確認している。	代表者は利用者にとってホームは「自分の家、大きな家族」であってほしいという思いを伝え、毎朝職員ミーティング時に基本理念を唱和している。特に理念の一部「目配り」に注力している。職員は利用者の不安を払拭し、利用者が安心感の中で生活できるよう支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との連携と理解を得るため積極的に親交を図るよう取り組んでいる。施設訪問等頻繁に受けている。	自治会に加入しており、地域の広報も届いている。地域住民とは近くの公園に散歩した際、ゲートボールの見学や会話して交流したり、ホーム見学も積極的に受入れている。地域の人から新鮮な魚、果物等の差し入れも多い。地域住民としての認知度が高く、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に対する理解を深めていく為、積極的に地域との交流を深めて行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回推進会議を開催し、地区の老人会、市担当者、社協職員の方を交え情報交換ができるよう配慮している。外部評価	出席者に案内文を郵送し、2ヶ月に1度会議を開催している。更に行政には具体的な議案を事前に提示し、当日は議案に対する情報を得るなど工夫している。毎回老人会や行政等幅広い分野の参加を得て、支援に役立つ意見が飛び交いサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議に出席して頂き、情報を共有しサービス提供の向上に努めている。日常的に指導、支援に向けて協力関係の構築に取り組んでいる。	代表者や職員は日頃から市役所の各課と連絡を取り合える関係性を築いている。権利擁護制度等を利用している利用者もあり、行政の介護に対する動きや方針等を早めに情報収集している。職員が行政の研修に参加する等、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないをモットウに職員全体で取り組んでいる。入居者全体の把握に努め、尊厳のある介護支援に取り組んでいる。	重要事項説明書には身体的拘束を行わない旨を記載している。理念の中の「目配り」を徹底する事により、玄関も施錠していない。職員はミーティング時に利用者一人ひとりについて話し合い、個性に合わせて言葉遣いや対応を変え、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にも積極的に出席できるよう環境を整え、虐待のない介護への取り組みを確認している。情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業制度を2名が活用されている。制度の理解と、職員の制度研修等積極的に取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時における契約内容の確認、説明を充分行い、不安や、疑問等の払拭に努め理解を得ている。制度改正や変更等においても周知を図るよう徹底している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の施設訪問、電話連絡等で入居者の介護状況、病院受診状況等こと細かく報告し、現状把握に努めている。	利用開始時に、重要事項説明書や意見箱の設置など説明している。毎月、利用者の様子や健康面を詳細に手紙に記し、家族へ渡している。また、ホームでの様子を電話で伝えることもあり、日頃より家族と会話することが多く、何でも相談できる関係ができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のスタッフミーティング、臨時会議、回覧文書等積極的に取り組み、情報の共有と意見、提案等の把握に努めている。	会議や毎朝のミーティング時に、職員は意見、提案している。職員は、日頃より代表や管理者とも話す機会が多い。シフトの希望や支援時に必要な物品購入など提案している。代表は、職員が安心して働けるよう、運営状況の報告及び処遇を整え、職員の勤務意欲に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与等については交付金制度を活用し賃金改善を大幅に行った。勤務等については一カ月の休暇希望等勤務表に取込み休暇が自由に取れるよう配慮している。有給休暇についても必要なときには取れるよう職場環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士、介護支援専門員の資格取得について積極的に取り組み、休暇、旅費等支援している。研修等積極的に取り組めるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日頃より、他施設との交流、訪問、電話等積極的に図っている。情報の共有を常に心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問調査で本人と面会。本人の生い立ち、家族環境、生活歴から総合的に判断し、施設での雰囲気介護等十分に説明し安心し納得してもらえるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者家族へ施設での取り組み、1日の生活状況、介護状況等こと細かく説明し、納得して頂けるよう関係構築に取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人の意向を把握し、安心してサービスが受けられるよう配慮している。又、他施設のサービス利用についても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設は1つの大きな家族という意識をもっている。いただき、苦楽を共にし、支え合ったり、励まし合ったりしながら生活していく、共同の場という認識をもってもらう。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者や家族の気持ちに寄り添い、お互いの思いが通じあえるよう支援している。常に入居者の生活状況体調等把握し家族に近況報告している。家族や入居者との信頼関係で施設での生活に不安を感じさせないケアに取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生れ育った故郷、実家、お墓参り等入居者家族との連携も図り、ドライブ、お出かけ等支援するよう心がけている。親戚、友人等電話や訪問等日頃より交流が頻繁に行われている為、日々の生活に活気がみられる。	家族や知人のほか、住んでいた地域の関係者など、利用者に会うための来客が多い。馴染み支援の重要性を把握しており、訪問しやすい雰囲気作りに努め、家族等に次も来てもらえるように声掛けしている。結婚式や法事の外出は家族の協力を得ている。自宅を見たいなど思いのある場所の周辺をドライブし支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味や気心のあった利用者同士を席替えし、一日がお互い気を使わず楽しく過ごせるよう配慮している。孤立することなく、支え合える人間関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院、転所されても、家族、利用者の近況把握に努め、相談や支援ができるよう心がけている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者はリビングのソファで皆と会話したりゲームやトランプ等一日を思い思いに過ごしている。その日の思いや体調等考慮しながら、介護員も声かけ、誘導、ゲーム遊びの手伝い等屈屈しないよう配慮しながら個々の思いに寄り添っている	職員は、1日1日人生を楽しく過ごせるようにとの思いから、利用者本位の支援に取り組んでいる。レクリエーションやケアの際に、利用者と共に寄り添って会話する時間を設けている。特に居室や入浴時のように、1対1の支援時には本音を聞くことが多い。職員は得た情報を口頭と個人記録記載で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や生き立ちを把握し、本人に合った介護支援に取り組んでいる。個性を尊重し尊厳を守る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄の状況、血圧、体温、脈拍等日々の健康状況を介護員が把握し、状況に応じたケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族から施設での日々の暮らしについて希望や要望を聞き取り、職員で協議し、医療機関の情報をもとに介護計画書を作成している。モニタリングを定期的に行い、内容の確認と変更を行っている。常に情報の共有に努めている。	長期・短期の介護支援目標を作成している。モニタリング時はケアマネージャーが職員全員の意見を聞き取りしている。介護日誌に記録した詳細な利用者の様子や本人の希望、また、家族面会時や電話で聞き取った家族の要望を含めて、介護計画を作成し同意を得ている。支援状況は介護日誌と連動しており、現状に即した支援となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調状況等毎朝のミーティングで協議し、個々の介護記録、業務記録等で食事や排泄、服薬状況を把握し健康状況や心身の状況を共有しながら介護計画の作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の生き立ち、家族環境等個々の個性を尊重し、それぞれに見合った介護支援に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の暮らしの安心を確保できるよう、地域、関係機関、他施設との情報交換、交流に努めている。四季折々の自然等移り変わりの状況をドライブ等で楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院を毎月定期的に通診し、主治医の処方箋で服薬をしている。緊急時には24時間体制で病院対応をする。受診結果については家族通信においてこと細かく報告している。体調変化をきたした時は、家族との連携を図る。	かかりつけ医の受診は職員が付き添い「受診ノート」に細かく記録している。家族には通常は「家族通信」にて報告するが、病状や服薬に変化があった場合は電話で報告している。夜間や緊急時は代表者夫妻が24時間ホームに駆けつけ病院受診させる体制が出来ており、家族や夜勤者の安心にも繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフミーティング、介護計画モニタリング、臨時会議等において日常的に情報を共有している。利用者の受診結果、服薬、体調の状況等把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院したらケアパスを作成し、介護情報等医療機関に提供している。主治医、家族等病状について情報を共有できるよう働きかけている。入院中はスタッフ、管理者等が定期的に訪問し洗濯物等支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医療機関とも連携し、重度化や終末期対応に取り組んでいる。看取りは現状においては対応できない。施設で出来る対応に取り組んでいるが老衰における病状の悪化については、家族との協議の上、病院での対応となる。	ホームは看取りを行わない方針である。利用者、家族には利用契約時に「重度化した場合における指針」の十分な説明を行い同意書を得ている。重度化した場合はかかりつけ医や家族との話し合いの結果、病院入院等の方法を検討し、利用者の希望に沿った支援ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	台風、火災、体調の急変等あらゆる事態を想定し毎月定期的に避難誘導訓練を実施している。入居者の夜間時の体調急変については、病院搬送において救急車の搬送もあろう。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	台風等被害の恐れがあるときは、夜勤者に加えて施設長が24時間体制で警戒にあたる。地域避難施設（地区公民館）との対応も踏まえて地域との連携を図る。職員間とは緊急連絡網で対応。地区消防団との連携も図る。	年2回の消防署立会訓練に加え、毎月夜間想定避難訓練も行っている。緊急連絡網を使った通報訓練や自然災害マニュアル作成、非常時持ち出し品の整備も行っている。地域と消防団が深い繋がりのある特性を活かし、地区消防団と連携を図り24時間体制で警戒に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や、生活歴、尊厳に配慮し、言葉づかい、礼節ある介護に心がけている。家族の面会、電話等については、個室での対応。電話子機で対応しプライバシーに配慮している。	個人情報に関する書面は、事務所で管理している。また職員の守秘義務も周知徹底している。理念の一部である「尊厳ある生活」の意義を職員は理解し、他の利用者に知られたくない会話や電話は居室で対応している。トイレ誘導など、羞恥心に配慮した声掛けや誘導に努めている。ただし、廊下からトイレの様子が見える場合がある。	利用者の自立支援も考慮しつつも、トイレ使用時のカーテンについての配慮方法の検討を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で個々の希望や意思を確認し1人1人が自分の意思決定ができるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望や楽しみを最優先し、その日の心身の状況に合わせて生きがいの持てる日々が送れるよう支援している。トランプ、ボール遊び、食材の皮むきドライブ等支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向にそった衣服の購入、衣替え、着替え等の支援など身だしなみや、おしゃれにもこと細かく支援し、四季に合わせた取り組みを心がけている。理美容院には、本人の意向に合わせて、定期的に利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好物や希望の料理を聞きながら地産の食材で献立を作成。誕生会、年間行事等には献立メニューを変えて対応。食事を楽しみにしている。テーブル拭き、下膳、材料の下準備等見守り介助の上、手伝って頂く。食事前には嚥下体操	管理者が利用者の嗜好に配慮しながら、地元の食材や郷土料理を中心に献立を作成している。咀嚼に合せた盛り付けで、見た目にも配慮している。利用者は落やもやしの根切り等を手伝ったり、職員の調理風景を眺めるなど準備から食事を楽しんでいる。誕生会やBBQ、敬老会など行事毎に楽しむよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、主治医の処方に配慮して日々の献立を作成。個々の食事摂取を記録している。嚥下機能の低下している利用者にはとろみをつけるなどの工夫でそれぞれに合わせた取り組みを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れ、臭いをなくす口腔ケアの重要性を日頃より伝えている。口腔ケアは、個々の能力に合わせ、声かけ、見守り介助を行っている。出来ない方は介助している。義歯の定期的な洗浄にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の自尊心を傷つけないよう配慮し、排泄パターンを把握するよう努めている。声かけや誘導を心がけ気持ち良い排泄ができるよう体調管理と合わせて支援している。	職員は排泄チェック表を作成し、各利用者の排泄支援状況を把握している。ホームでは座位排泄を支援している。自立支援を優先し、自らトイレに行く人は見守りしている。誘導の場合は、仕草や声掛けの介助を行うことで、失禁が減っている。使用するパッド類も状況に合わせて検討し、快適に過ごせるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人1人の排泄記録等で確認しながら、食物繊維の摂取、食材の工夫、運動等取り入れて、自然排便を促す取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴で、衣類着替え、入浴介助等2名体制で支援している。バイタルチェックを行い体調のすぐれない人は、清拭等で対応している。風呂も広くゆったりと入浴でき、皆さん、入浴を楽しみにしてあります。	週3回の入浴日があり、利用者がゆっくり湯船に入れるよう支援している。職員が2人体制で支援しており、利用者には安心感がある。利用者によっては着替えを選んだり準備にも関わっている。拒否時は時間を空けたり、声掛け方法で対応している。1対1で職員と会話をしながらの入浴を利用者は心待ちにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調、気分等を見極めながら、自室などでの休憩、安眠等できるよう配慮している。夜勤者の報告により、夜、睡眠がとれていない方は、積極的に昼間の休憩を取ってもらうように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の処方内容を職員が把握管理し、朝、昼、就寝前と薬を分包紙、主治医の指示どおりの服薬支援をしている。服薬の出来ない方は、介助し、朝、昼、夜とバイタルチェックを行い、健康管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日が楽しく、生きがいのある日々が過ごせるようその日のリズムに合わせた取り組みを支援している。カラオケ、トランプ、ボール遊び、折り紙、洗濯物たたみ、散歩等その人にあった取り組みを心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調、気分等を配慮して、施設回りの散歩等介護員付き添いのもと支援している。年間四季折々の自然を楽しむためドライブ等出かけている。家族同伴の外泊、外出も積極的に支援している。	天候や体調に配慮しながら、ホーム周辺を散歩している。車椅子利用者も一緒に外出している。近所のパターゴルフ場まで出掛けたり、気分転換にドライブしている。花見や地域の行事、国境マラソンの応援など、機会に応じて外出している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院代、薬代、衣服、消耗品代等預り金として、家族から預かり、月末ごとに収支報告を出納簿写しを添付して報告している。嗜好品、菓子代等本人の要望があれば随時使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での対応、対応はプライバシー保護のため子機で会話し、自室で対応する。手紙のやり取りの方はいないようです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然環境に恵まれた施設で、個室は、和室と洋間風の造りになっている。内装も落ち着いた色合いで全てバリアフリーとなっている。トイレ、風呂場とも落ち着いた空間で使うことができる。	建物は木造の温かみがあり、玄関ホールや廊下にソファを配置し、利用者や家族がゆっくり出来るスペースも設けている。リビングは、温度や明るさも心地よく配慮している。職員は日中2回清掃し、年に数回大掃除も行い、常に清潔感を保ち、誰が来ても居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大広間のソファで、思い思いに過ごせるよう、席の配置を工夫している。テレビを見たり、ゲームをしたり1日を入居者全員で楽しく過ごせる場として共有している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の意向にそえるよう部屋選びを配慮している。押入れ、物入れ等にはそれぞれ布団、衣類等季節ごとに整理している。入れ替えがスムーズにできるよう配慮している。	利用者は馴染みの使い慣れた筆筒や小物類を自由に持ち込んでいる。自分の作品や家族との思い出を飾ったり、調度品の配置も好みに応じている。担当職員が希望に添いながら、季節毎に衣替えを手伝っている。倉庫に荷物を預かり、随時対応できるように工夫している。毎日職員が掃除・換気をし、快適で心地よい居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境造りに配慮している。玄関前はスロープで雨天でも濡れることなく車の乗り入れが可能である。施設内部は全てバリアフリーで段差をなくし転倒防止に配慮している。安心安全に努めている。		